

1 研究主題 「思いや考えを伝え合う授業の工夫」



2 研究の概要

(1) 講演会 期日：6月1日（水） 会場：燕南小

演題 「思いや考えを伝え合う授業の工夫」

～アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善～

講師 燕市教育委員会 学校教育課 嘱託指導主事 武藤 真理子 様

<主な内容>

アクティブ・ラーニング（以下 AL）とは、授業を単に「アクティブにする」「言語活動を取り入れる」ことに止まらず、学習活動の質「①問題発見・解決を念頭に置いた深い学び②他者との協働を通じて、自らの考えを広げ深める対話的な学び③見通しをもって取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる主体的な学び」を追究することである。つまり、ALとは、特定の型を普及させるものではなく、子どもたちの学習への積極的関与や深い理解を実現させる授業へと改善していくための視点である。よって「単元を貫く言語活動」により、実際に使いながら身に付ける・子ども自身が思いを膨らませて話したり書いたりする取組を行うことが大切である。

(2) 授業研究会 期日：11月30日（水） 会場：分水北小

教材 1年 くらべてよもう「じどう車くらべ」

授業者 分水北小学校 中村 真弓 教諭

指導者 燕市教委 嘱託指導主事 武藤 真理子 様



<協議会と指導の概要>

- 作成途中の自動車図鑑を示したことで、子どもたちは単元の学習のゴールと本時の課題をつかみ、学習の見通しをもつことができた。スクリーンに投影されたはしご車を見て、声を上げたり指を指したりする姿から、学習意欲の高まりが感じられた。見通しをもつことは主体的な学びにつながる。具体的なゴール「年長さんに図鑑を見せる」は毎時間意識させるといい。
- 話し合いでは、視点をはっきりもたせることが必要。「しごと」と「つくり」のつながりを考えさせるならば、「しごと」と「つくり」共にワークシートに示す。話し合いの過程では、考えやその変化を視覚化することが、考えを深めることにつながる。よって、マジック等で画用紙に書かせながら話し合わせ、話し合いの過程を常に振り返ることができるようにするのも効果的である。

3 成果と課題

2回の部会とも、燕市教委 嘱託指導主事 武藤 真理子 様からご指導いただき、国語科におけるALの理念と実際を深く学ぶことができた。授業の参観・協議を通じて、単元を貫く言語活動やグループでのかかわり合いの具体をALの視点で捉えなおすことができ、大変有意義であった。今後、個々の会員が、このALの視点で日々の授業改善に取り組むことで、郡市小教研全体で子どもの学びの質を向上させていきたい。